

安曇野市観光振興ビジョン委員会
第6回委員会議事概要

1 委員会名	第6回 安曇野市観光振興ビジョン策定検討委員会
2 日時	平成24年11月28日 午後 1時 30分から午後 4時まで
3 会場	穂高総合支所 大会議室
4 出席者	増田委員、川崎委員、櫻井委員、清水委員、松本委員、太田委員、加渡委員、宮崎委員、 浅川委員、岡本委員、
5 市側出席者	大内部長、曾根原観光課長、高山係長、 受託事業者（交通公社）
6 公開・非公開の別	公開
7 傍聴人	2人、記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成 24 年 12 月 11 日

- 会議事項
- 1 開会
 - 2 委員長挨拶
 - 3 議事
 - ①安曇野観光の理念、安曇野暮らしツーリズム5箇条、戦略プロジェクトについて
 - ②観光推進体制、今後の進め方について
 - 4 その他
 - 5 閉会

議事録（概要版）

① 安曇野観光の理念、安曇野暮らしツーリズム5箇条、戦略プロジェクトについて

委員

- ・ 3つのテーマ「水」「農」「歴史・文化、芸術」は安曇野の特徴を捉えている。ただ、「水」「農」における「食」は重なりがある、「歴史・文化、芸術」で「食」はイメージしづらい部分があるため、「歩」「食」「泊」に加え、「学」があると良いのではないかと。

委員

- ・ 「空き家バンク（仮称）」はおもしろい取り組みであるが、ノウハウやビジネスモデルをしっかりと提供しないとうまくできないのではないかと。

委員

- ・ 「歩」から「泊」に至る過程の中で、いかに滞在させていくのかと考えたときに、泊まらないけど滞在時間を長くしていくという考え方が必要ではないかと。
- ・ 「水」に対して、水道水が美味しいということだけでも十分にインパクトがある。そのようにシンプルに考えてはどうか。
- ・ ウォーキングイベントでは、「ぬかくど」を振る舞っており好評である。「ぬかくど」をイベントで活用し、来訪者の前でお米を炊くとより安曇野の食を体感してもらえるのではないかと。

- ・ 「歴史・文化、芸術」では、多くの既存の取り組みを一元化して情報提供するかということに目を配る必要がある。保高宿周辺を観光客が立ち寄れるスポットとしていくことが必要である。

委員

- ・ ボランティアガイドでは無料となってしまうため、継続的に取り組めない。そのため、きちんとお金をいただく取り組みとすべきである。
- ・ 安曇野市での取り組みとして、サマースクールなどが書かれているが、現状は厳しい部分もあるため、ただきれいに書かれているだけではダメである。
- ・ ビジョンに対して市民にコメントをもらうためには、町内会や学校などに配布するなど動かなければ、見てもらうことはできないだろう。

委員

- ・ 「食う」「寝る」「遊ぶ」は観光のベースとなる行動であるため、「歩」「食」「泊」というプロジェクトの分け方は良い。ストーリーをもう少し詰めていくと良い。
- ・ 安曇族などの古い歴史や自慢したくなるきれいな風景など、もっと良いものが市内には転がっているため、安曇野にある資源をもう少し具体的に入れて欲しい。
- ・ 国民保養温泉地として、穂高温泉郷が指定されれば良いのではないかな。

委員

- ・ 安曇野の水は一箇所だけでなく、安曇野市全体どこでも美味しい。
- ・ 「歴史・文化、芸術」には、寺社仏閣をもう少し入れるべきではないかな。

委員

- ・ キャッチコピーでは、「安曇野暮らしツーリズム」を前面に出し、サブタイトルとして「豊かな旅・豊かな生き方」を入れるべきである。
- ・ 5 箇条について、「食」に係る言葉は安心・安全ではないか。「繋ぐ」という言葉は分かりづらいため「文化の香り高い」にすべき。4 番目は何を言いたいのか分からない。5 番目は「住む人」と「訪れる人」と表現を変更すべき。5 箇条は、誰もが読めばなるほどと分かるものにする必要があるため、もう少し言葉を練るべき。
- ・ 「歴史・文化、芸術」の「泊」は内容が浅いため、もう少し検討する必要がある。泊まれないと体験できない「歴史ウォーク」など他にも展開できるのではないかな。

委員

- ・ ツーリズムという言葉は「安曇野暮らし」に合わない。
- ・ 5 箇条については、「安曇野暮らし」が何かということを明確にすべきで。
- ・ 戦略プロジェクトでは、9つのプロジェクトに取り組んでいくことは非常に難しい。3つのテーマに対して、「歩」「食」「泊」に沿ったプロジェクトを展開していくと総花的であり、結局安曇野は何なのかというところが曖昧になる。何か1つに絞って極めると言うことが大切ではないかな。
- ・ 経済効率性がないと継続的な取り組みになっていかないため、商売が成り立つ仕組みを作らないと長続きしないということは難しいだろう。
- ・ 「天然水道水のまち」というように水をもっとアピールすべきではないかな。
- ・ 「農」は「歩」というよりも「体験」ではないかな。「水」で歩く場合、各ポイントでお土産を購入できる、カフェで休憩ができるというような楽しめる仕掛けが必要である。
- ・ 安曇野にはすでにブランド力があるため、絞り込んできちんとアピールすべきではないかな。誰に向かってやるのか、ビジネスにしていくと言ったときに観光客の目線を忘れないようにすべき。

委員

- ・ 安曇野ブランドとして水を売り出し、地下水を大切にしていこうということが必要である。
- ・ 「歩」は健常者のためのプランであり、足の不自由な方には難しいプランだと感じる。車いすの方でも歩けるところを作っていくべき。

委員

- ・ キャッチコピーについて、「ツーリズム」という言葉に抵抗がある。新しい観光＝ツーリズムと置き換えずにもう少し言葉を考えるべきではないか。
- ・ 5箇条は必要である。「安曇野暮らし」が「安曇野暮らしツーリズム」と言う言葉に展開するまでの説明を加えるべき。
- ・ 数値目標について、まちづくりに資するための観光であれば、「住民満足度」を指標として図るべきではないか。
- ・ 基本戦略1では、生活環境・景観の保全として、古民家・屋敷林などの保全を考えていくべき。農林漁業ではなく農水産物という言葉を使うべき。
- ・ 戦略プロジェクトについては、関係性をもう少し明確にすることが必要である。また9つの枠組みがあることで総花的に見えるのではないか。しかし、与えられた枠組みの中で、各主体が自主的にアイデアを出して取り組んでいくということであれば、枠組みを残し、具体的には書き込まないと良いだろう。
- ・ 水そのものを飲むことをもっとアピールできなだろうか。「水」で泊まるは「温泉」だけでなく湧水で涌かした風呂もあるのではないか。
- ・ 「農」では里山、ぬかくど、屋敷林の活用も考えるべきである。
- ・ 「歴史・文化、芸術」では、安曇族をもっと打ち出すべき。ものや景観だけでなく創造力で遊べる安曇野もあるだろう。

委員

- ・ キャッチコピーについては、自分にはぴったりと来る。表現として「安曇野暮らし」に色を付けるなど工夫をして、「安曇野暮らし」を大切にしていこう、ブランド化していこうということを分かりやすく示してはどうか。
- ・ プロジェクトについて、明確に分けていくことは難しいので、相互に乗り入れて具体的なプロジェクトを1つでも取り組んでいくことが必要である。「水」「農」「歴史・文化、芸術」を絡めたウォーキングに取り組んではどうか。
- ・ 安曇野に住んでいる人といかに交流させていくかという仕込みが必要だろう。

事務局

- ・ 5箇条について、4番については、都会にはないようなコミュニティがあるという趣旨で書いている。伝わりづらいため、書き方を検討する。また、この5箇条は、誰に伝えるものなのかということを確認させる。

委員長

- ・ ツーリズムという言葉に抵抗感がある、安曇野暮らしにツーリズムがつながることが理解できないという意見があるがどうか。

委員

- ・ 暮らしとツーリズムをつなげたということに引っかかりがあるということだと思うが、引っかかるということが大切である。

- ・ 「暮らし」を見に行くということで、「安曇野暮らしツーリズム」という言葉を作っていくということからこのキャッチコピーのままで良い。

委員

- ・ 使い方はこれでよいのか。呼びかけは安曇野の人であるが、「ツーリズム in 安曇野暮らし」にしてはどうか。5 箇条の主語が「わたしたちは」となると、「はじめよう」という呼びかけの相手は市民ではない。新しいツーリズムを始めようという呼びかけを市民に呼びかけるということであれば良い。

委員長

- ・ 安曇野に住んでいる人と来訪者と一緒に「安曇野暮らし」を作り上げていくということがこれまで議論されてきており、それが「安曇野暮らしツーリズム」という言葉で表現されている。

委員

- ・ 豊かな生き方に旅も含まれるため、豊かな旅は不用である。

委員

- ・ 5 箇条は「安曇野暮らし」の 5 箇条とし、その安曇野暮らしを体験するのが「安曇野暮らしツーリズム」だということを明確にすべき。

委員

- ・ 「安曇野暮らし」という言葉をスタンプのように表現し、「安曇野暮らし」と際立たせていけばよいのではないか。

委員長

- ・ キャッチコピーは、安曇野暮らしを前面に出す、5 箇条は安曇野暮らしの原則とする。

委員

- ・ 数値目標に住民満足度は入れるべきだと思う。また、情報提供する人といかにつながっているのかという意味では「暮らしサポーター」は来訪前段階であり、観光客満足度・住民満足度・経済波及効果は来訪後の効果であることから、数値目標は時系列で順番を変えるべき。

委員

- ・ 住民満足度も大切な指標であるため、「安曇野暮らしホスト（仮称）」のような形で、市内に居住する人がどの程度安曇野暮らしツーリズムに関わっていかうとしているのかを見ていくことも必要である。

委員

- ・ 住民満足度は、心豊かで満足なのか、波及効果で経済的に豊かになって満足なのかということは見極めることが必要だろう。経済波及効果を目標として、そのために滞在時間を増やしていくのか、満足していただけるようにするのかということがあるのではないのか。そのため、表記の順番は、「経済波及効果」を一番上にすべき。

委員

- ・ ここにはなぜそれらの数値目標を立てていくのか記入されていない。また、「来訪客の満足度」については、なぜ満足したのか、どこに満足したのか、どのようなニーズであったのかということ把握すべき。

委員

- ・ 実現化に向けて取り組んでいくプロジェクトが数値につながっていく。観光客の満足度を高めていくために、「安曇野暮らし」ということを提案していくということである。

事務局

- ・ 数値目標については、もう少し検討させていただきたい。後ろの基本的戦略・具体的取り組みで来訪者に「安曇野暮らし」を提案していくが、来訪者がそれをどのように「評価」するのかということを追っていくべきであり、そのために必要な指標を求めていく。
- ・ 住民満足度は、「安曇野暮らしツーリズム」に関わっている方の満足度なのか、市民の満足度なのか。そこをもう少し議論していただきたい。

委員

- ・ 基本戦略1「まもろう」は「つくろう」、基本戦略2「そだてる」は「しつらえる」という表現に変更し、柔軟性をもたせるべき。

委員

- ・ 戦略プロジェクトについて、「食う」「寝る」「遊ぶ」の全てをつなげるものとして「歩く」を位置付けてはどうか。

委員

- ・ 「安曇野暮らし」の実現にあたって、ロードマップを付けることが必要である。3～5年間で「安曇野暮らし」を全国に伝えていくこととし、今年は〇〇をテーマに取り組む、来年は別テーマで取り組むという方法を取っていけば、9つのプロジェクトも実現できるのではないかと。
- ・ 各論となるが「ぬかくど」を活用した歩くイベントなどはおもしろいのではないかと。絵になりやすく取材しやすい題材となるだろう。

② 観光推進体制、今後の進め方について

委員

- ・ 安曇野暮らしツーリズム協会は、現存の安曇野市観光協会が名称と実質を変えていくということなのか、別途新たな組織を作っていくのか。また、この委員会ではなされている議論に、安曇野市観光協会を実際に運営する立場の方は参加しているのか。

事務局

- ・ 本委員会には、観光協会から3名が委員として参加している。また、今回の資料を作成するにあたって、観光協会ですら一度議論をするようお願いをしている。関係者がどの程度関わっていくのかということを検討する中で、観光協会がそこまで取り組めるのかはこれからである。観光協会が主体となるが、様々な組織が関わってこのような体制になっていくかもしれない。

委員

- ・ 従来の観光協会の中身のままでは意味がなく、次立ち上がろうとするときに立ち上がれないことを懸念している。観光協会ですら運営を仕切っている方々に安曇野暮らしツーリズムについて、しっかりと理解してもらい、観光協会が生まれ変わっていかないとギャップがでてくるのではないかと。

委員

- ・ 既存の観光の概念を変えていくことで、既存の観光協会が一気に変わっていくことは難しいのだろう。安曇野暮らしツーリズム協회를別途立ち上げ、数年後に既存の観光協会と合体させていくという方法が現実的である。
- ・ いかに歩かせるかが安曇野暮らしツーリズムの肝であるため、既存の観光案内所機能だけでなく、駐車場を備えた総合的なインフォメーション機能が必要である。
- ・ また、ビジョンの次の段階として「アクションプラン」を作っていくことが必要である。

委員

- ・ 外にどうやって情報発信していくかが鍵になる。未来訪者をどのように呼ぶか、SNSなどの活用にあたっては、リテラシーや人選、教育ということが課題となるだろう。安曇野産直品にリーフレットを入れるなど柔軟な体制が必要である。また、ボランティアでのサポーターは長続きしないため、責任を持った人を揃えていくことが必要である。また、ターゲットによって話題を変えていくということも考えていくことが必要である。

委員

- ・ 実戦部隊が必要であるが、それぞれの分野のインストラクターを市の責任で育成していくことが必要である。

委員

- ・ 安曇野ファンを作っていくことが必要で、既存の観光協会だけでは難しいだろう。下支えするメンバーが必要であるが、ボランティアだけでは難しいので、行政の協力が必要となる。

委員

- ・ 具体的なアクションとして「3 day マーチ」に取り組んではどうか。松川・大町で「2day マーチ」が開催されていたが、参加者が長野市や諏訪市などから参加していた。安曇野暮らしでは、安曇野ならではのイベントができると感じたし、そのような取り組みを通じてプラットフォームができてくるのではないかな。

委員長

- ・ 人材、情報、統計、交通、ユニバーサルデザインという議論が入っており、安曇野暮らしを実現させていくうえで極めて重要な部分である。ロードマップも必要であるが、実現させていくための体制が必要である。
- ・ アクションプラン、ロードマップ、行程表については、来年度以降ということで今後、どのようにしていくのか市に検討をお願いしたい。